

会 議 録

- 議事内容 2025年度 6月定例教育委員会
- 日 時 令和7年6月17日(火) 13:30～16:10
- 場 所 4階会議室4-1
- 出席者 教 育 長 小西 博泰
教 育 委 員 藤本真理・石原友紀・酒井秀彦・加納昌樹
事 務 局 入江教育管理部長・藤井教育指導部長
松田教育総務課長・市橋いきいき社会創造課長
福西スポーツ振興課長・教育総務課 小畑

■〔会議の内容〕

1 開会あいさつ

・教 育 長

2 前回議事録確認

(全委員一致で承認)

3 報告事項

・令和7年度主要事業の進捗状況の説明及び教育委員からの意見聴取

■〔学校教育課関連〕

①「夢と希望の教育」の充実と深化【教育課程管理】

(進捗状況)

- ・5月29日、教育行政顧問の川島隆太教授と面談を行い、助言内容について校長会で情報共有した。
- ・県の幼保小の円滑な接続推進事業として、わか松・小野東幼稚園と光明保育所、小野小学校との連携について進めている。11月には、兵庫教育大学の飯野准教授を講師として迎え、研究発表会を実施する予定である。
- ・6月4日の人権教育推進委員会では、来年度の方針を決定している。
- ・万博訪問については、大きなトラブルもなく順調に進んでおり、7月3日をもって1学期分が終了する予定である。

(今後の予定)

- ・6月24日、「学力向上推進委員会」を開催する予定である。
- ・6月から順次、各校においてコミュニティスクールを運営するため、学校運営協議会が開催されている。地域の方々の意見をいただきながら、学校方針を確認し、学校運営を進めている。

②「チーム学校」を踏まえた学校組織マネジメントの強化とリスクマネジメント【危機管理】

(進捗状況)

- ・校内サポートルームについては、不登校率の減少等、効果が出ているため、引き続き進めていく。

(今後の予定)

- ・7月24日、不登校研修会を開催する予定である。

③人材育成と働き方改革【人的管理】

(進捗状況)

- ・6月9日、市の初任者研修会を実施した。(17名)
- ・夢と希望の教育推進委員会において、全ての教職員が「時間外労働月45時間以内」を目標として、業務改善に取り組んでいる。
- ・教職員のリモートワークの準備が完了し、71%の教職員が活用している。
1学期終了時点で、利用率と効果検証を行う。

④学校教育課情報

1 市の取組

- 5月27日 夢と希望の教育推進委員会（業務改善について）
- 5月28日 幼保小の円滑な接続推進事業（県との連絡会議）
- 5月29日 川島隆太教授研究室訪問（指導助言）
- 6月 2日 校長会
- 6月 4日 人権教育推進委員会（研究テーマについて）
- 6月 9日 市初任者研修会①（17名）
- 6月24日 学力向上推進委員会
- 7月 1日 行政視察：愛知県稲沢市（夢と希望の教育）
- ◆7月25日 講演依頼：宍粟市商工会（脳科学への取組）
- ◆7月30日 体験学習フォーラム発表依頼：兵庫県教育委員会（小野市の自然学校への取組）

※市管理職試験（予定）

筆記 6月23日（月）14時00分～

面接 6月30日（月）午後

2 学校の取組

○運動会

- ・5月17日（土） 小野特別支援学校

- ・ 5月25日（日） 小学校、河合小中（雨天のため、1日順延）
→ 半日開催、無事終了

○トライやるウィーク

- ・ 5月19日（月）～23日（金） 小野中 市内各地
 - ・ 5月26日（月）～30日（金） 小野南中、旭丘中 市内各地
- 無事終了

○修学旅行

- ・ 5月19日（月）～21日（水） 旭丘中 （沖縄方面）
 - ・ 5月20日（火）～22日（木） 小野中、小野南中（沖縄方面）
- 無事終了 河合中学校、小野特別支援学校は、9月実施予定

3 学校の状況等

○5月 4号報告8件（問題行動等）

○5月の不登校の状況 （ ）内は前年数値

小学校10名（11名）、中学校39名（51名） 合計49名（62名）

4号報告については、学校が始まって2ヶ月が経過し、環境に馴染めない子どもたちの問題行動等があるが、口げんか等、軽微なものばかりで、早期解決ができている。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：運動会を観覧した感想

A：小野東小学校では、児童数が多いため、保護者が見やすいように、見る場所をできるだけ広く取られていた。来住小学校では、保護者に子どもたちの姿をたくさん見てもらうため、1つ1つの競技が、盛りだくさんの内容になっていた。そういったそれぞれの学校の特長に合わせた工夫に感心した。また、小野東小学校の児童会長の心のこもった素晴らしい挨拶に、とても感動した。（教育委員）

A：保護者参加型の競技が多く、保護者を巻き込む工夫がみられ、楽しむことができた。また、小野小学校と小野東小学校の集団行動の隊列が、非常に美しく感動した。小野東小学校の児童会は、入学式でも主体となって劇をするなど、毎年、下級生がその姿を見て憧れていると聞いている。（教育委員）

A：小野東小学校は、注目している学校の1つである。4月の参観日を見学した際、先生が2回軽く手を叩くだけで、児童が静かに前を向くところを見て驚嘆した。通常、クラスの人数が多いと、大きい声で注意しがちであるが、笑顔で素早く収めるテクニックが素晴らしかった。また、机の配置についても、コの字型や扇形等、先生方の個性や工夫がみられ、感動した。（教育委員）

Q：万博見学が進んでいるが、特に対応に困った点等はないか。（教育長）

A：来住小学校の見学日は、大雨だったため、傘や合羽等で対応した。子どもたちの視界が、若干狭くなったが、特に問題はなかった。今のところ、熱中症等の報告についても入っていない。しかし、連日、猛暑が続いているため、引き続き、熱中症対策を万全に行っていきたいと考えている。（事務局）

Q：万博会場の混雑等で、困ったりはしていないか。（教育委員）

A：万博会場は、非常に混雑しているが、昼食会場も事前に予約しており、大きな混乱はない。（事務局）

Q：教職員のリモートワークとは、どういうものなのか。（教育委員）

A：県の在宅勤務用システム「テレワーク兵庫」を活用し、自宅のパソコンから学校で使用している校務用パソコンにアクセスし、遠隔操作で仕事や作業することである。「テレワーク兵庫」は、兵庫県が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、在宅勤務の活用によって、職員の出勤削減を実施するために導入したシステムで、各市町村でも活用されている。今まで教職員は、学校で使用している校務用パソコンからUSBメモリにデータをコピーして、自宅に持ち帰り、自宅のパソコンにUSBメモリを接続して仕事をしていた。ところが、全国で、USBメモリによる情報の紛失・漏洩の事故が頻発したことから、それを回避するため、このシステムを取り入れている。このシステムは、自宅のパソコンから遠隔操作はできるが、データを自宅のパソコンに保存できない仕組みになっており、データ管理上も安心できる。リモートワークは、多様な働き方という意味において、育児や介護等で早く帰宅しなければならない教員にとって精神的なゆとりを生むためのシステムとも言える。（事務局）

Q：自宅でリモートワークしている時間は、時間外勤務にはならないのか。将来的には、時間外勤務手当がついたりしないのか。（教育委員）

A：兵庫県は、基本的に時間外勤務と認めていない。しかし、勤務実績は、勤務時間を記録している記録簿には記入している。（事務局）

A：教員は、国の法律に基づき、基本給の4％分を一律で上乗せする代わりに時間外手当を支給しないという、特殊な給与体系で働いている。時間外勤務については、4項目（実習業務、学校行事、職員会議、非常災害等）の業務のみ認められている。現在の調整手当は4％であるが、1年1％ずつ引き上げられ、10％まで上がる予定になっている。（事務局）

A：教員の仕事は、家庭訪問等の家庭への対応や、修学旅行や遠足等の学校外での活動もあり、「ここまで」という仕事の線引きができない。また、点数化できない業務が多く、目に見えるような成果が出ないことも多い。さらに、夏休み等の長期の学校休業期間もあることから、時間管理下での時間外勤務手当といった形

ではなく、一律の調整手当方式になっていると考えられる。(教育長)

Q：不登校の人数が増減する兆候は、時期によってあるのか。また、不登校の人数は学校の児童数の多少に関係しているか。(教育委員)

A：特にゴールデンウィークや夏休み明けは、学校への行き渋りや体調不良等、不登校の前兆が見られる子どもが増える。不登校の人数については、学校の規模や児童数には直接関係していない。どちらかといえば、発育発達による影響はあり、思春期にさしかかった時期に増加する傾向にある。(事務局)

Q：今後の課題として、下記の2点を検討していただきたい。(教育長)

- ・ 昨年と比較して、中学校の不登校人数が減少した効果について、サポートルームの設置によるものであるかどうかを検証し、今後の小学校への不登校対策について協議すること
- ・ 中学校の修学旅行について、料金の問題もあると思うが、5月は学校行事も多く、行先である沖縄は梅雨の暑い時期でもあるため、秋季の10月末頃に変更することはできないかということ

A：承知した。(事務局)

■〔教育総務課関連〕

①おの幼稚園整備事業

(進捗状況)

- ・ 新幼稚園整備工事の進捗率は、24.02%で工程どおり進んでいる。基礎躯体工事、埋設配管、雨水排水工事、鉄骨建方の準備を行っている。

②学校施設長寿命化対策事業

●旭丘中学校

(進捗状況)

- ・ 体育館建替工事

令和7年6月5日入札落札 757,680,000円

株式会社平尾工務店 令和7年6月25日～令和8年10月31日

(今後の予定)

- ・ 仮契約を6月上旬、議案上程6月16日、議決・本契約6月25日

●河合中学校

(進捗状況)

- ・ 校舎長寿命化工事設計業務委託については、進捗率9%で、5月12日に学校・市・設計業者3者による意見交換会、5月28日に現地調査、6月12

日に仮設校舎の打合せを行っている。

- ・ 格技場北側に建設予定の仮設校舎については、敷地面積を考慮し、エレベーター付きの3階建にするのか、L字型にするのかを検討している。

(今後の予定)

- ・ 基本計画案策定に向けた3者打合せを、随時実施する予定である。
- ・ 6月に敷地測量、エレベーター棟のボーリング調査、アスベスト調査を実施する予定である。

③学校施設バリアフリー化整備事業

(進捗状況)

- ・ 市場小エレベーター設置工事の進捗率は、5%で工程どおり進んでいる。現在、仮設工事、ウッドデッキ撤去工事、解体工事を行っている。
- ・ 大部小耐力度調査業務委託については、進捗率40%で、5月17日に現地調査を行っている。

(今後の予定)

- ・ 大部小エレベーター設置工事实施設計業務委託について、7月に入札・発注予定である。

④学校体育館空調設備整備事業

(進捗状況)

- ・ 学校体育館空調整備工事設計・工事監理業務委託(その1)の進捗率は49.8%、学校体育館空調整備工事設計・工事監理業務委託(その2)の進捗率は16.6%で、順調に進んでいる。
- ・ 学校体育館空調整備工事の進捗率は、中学校3校とも5%で、電気工事や配管工事を進めている。

⑤教育総務課情報

1 学校施設工事等関係

○小野中学校空調更新工事

令和7年5月7日入札落札 102,298,900円

株式会社大林設備工業 令和7年5月12日～令和7年10月31日

→進捗率：1%、5月12日：現地調査済

○小野小学校空調更新工事

5月29日入札落札 79,200,000円

株式会社テラマエ設備工業 令和7年6月5日～令和7年9月30日

○小野東小学校空調更新工事設計業務委託 6月9日入札予定

○学校照明LED化事業（設計：来住小学校、下東条小学校） 6月9日入札予定

○インターホン設置工事

→児童生徒のアナフィラキシーショック発生時や不審者侵入時などの緊急事態に備え、教室から職員室へ迅速に連絡が取れるよう、教室へのインターホン未設置校に対し、インターホンを整備する。

＜対象校＞小野小、河合小、市場小、大部小、中番小、下東条小、小野中
※夏休みを利用して、工事を完了させる予定

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：異常な猛暑となっているが、学校の空調設備の使用については、各学校で決定しているのか。（教育委員）

A：市内統一の操作要領を作成し、毎年、校長会で配布している。基本的には、室温28℃以下に設定しているが、湿度等によっては、学校で柔軟に対応するよう指示している。（事務局）

Q：河合中学校の長寿命化工事設計業務委託の今後の予定に「アスベスト調査」が入っていたが、アスベスト含有の疑いがあるため、調査するのか。結果によっては、工事の仕様変更もあるのか。（教育委員）

A：そのとおり。アスベストの有無に関わらず、建物の施工年代によって、「アスベスト調査」は義務化されている。もし、調査で含有が認められれば、飛散防止対策等の適切な対応を行ってから工事を進める形になる。（事務局）

■【いきいき社会創造課関連】

①いきいき社会創造課情報

○図書館特別整理（蔵書点検）の実施に伴う休館
整理期間：6月17日（火）～24日（火）

○図書館「言葉の祭典」展示

日 時：5月28日（水）～6月16日（月）

場 所：小野市立図書館

内 容：「ことば」をテーマに、日本の美しい言葉や方言、言葉遊びの本などを展示する

○企画展「終戦80年 戦時下の暮らし」

期 間：6月7日（土）～9月15日（月・祝）

場 所：小野市立好古館

○小野市青少年育成運動推進委員会

日 時：6月24日（火）19時00分～

＜研修会＞

テーマ：「人」を育てる「道（どう）」と人権事案

講 師：人権擁護委員 田中賢治 氏

○小野市短歌研修会（令和7年度 新規事業）

日 時：9月20日（土）13時00分～

場 所：小野市立図書館 2階 研修室

内 容：講師による短歌創作の講義と参加者作品の添削

※令和6年度までは、短歌フォーラムの地域版として、短歌を募集し、優秀作品の表彰を行っていたが、今年度は、市民の短歌創作意欲の向上と作品のブラッシュアップを目的に「研修会」として実施

＜投稿募集＞

締 切：8月3日（日）当日消印有効

定 員：30名（小野市民優先）

資 格：研修会に参加できる方

②行事一覧 ※既に終了した事業を含む（別紙詳細）

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：「教科書で出会ったあの名作展示」「としょかんめいろ」等、ユニークで興味をそられる企画があるが、企画の発案は司書がしているのか。例えば、小学生・中学生・高校生等といった若い年代にターゲットを絞ってみてはどうか。（教育長）

A：企画の発案は、司書や職員がしている。図書館の利用については、若い世代だけでなく40代の利用も少なく、思案している。（事務局）

A：40代というと、仕事や家事や育児等、人生で一番忙しい時期なので、確かに難しい。（教育委員）

Q：小野市立図書館は、人口規模別貸出冊数が全国で上位に位置していると聞いているが、どうか。（教育委員）

A：人口規模別貸出冊数については、開館以来、全国1位を12回達成しており、令和5年度の実績は全国2位となっている。現在は、相談業務であるレファレンスサービスに力を入れており、10年連続で、国立国会図書館から表彰を受けている。（事務局）

Q : 図書館については、10年程前までは、若い世代の利用促進を目的として様々な対策をしてきた。今後は、高齢者の憩いの場、もしくは若い世代の「居場所づくり」という観点から、図書館はどうあるべきかを考えていく必要があるのではないか。(事務局)

Q : 中学生は、今まで下校時刻ギリギリまで部活動をして帰宅していた。例えば、今後、部活動が拠点校方式に移行し、部活動がない日に自由時間ができ、図書館に寄りたいと思ったとしても、通学路が決められていることから、図書館に寄ることは、難しいのではないだろうか。(教育委員)

A : 小学生については、保護者の送迎のうえ、コミセンの寺子屋を利用している子どもたちもいる。(教育委員)

A : コミセンいちばでは、多くの高校生や大学生が、図書室等を利用して自習している。(事務局)

A : やはり、そういった市内の公共施設へ通うことについては、大きな課題がある。例えば、学校終了後、保護者の送迎で、アルゴにスイミングや体操教室等を通っている子どももいる。送迎は、保護者にとって、非常に大きな負担である。今後は、そういった送迎の問題を含めた各施設の利便性についても、同時に考えていかななくてはならないのではないだろうか。(教育委員)

※ : 「居場所づくり」という観点で考えると、図書館だけでなく、今後は、学校図書館や自習する場所としての教室の開放、市内各施設の利用においても、子どもたちや保護者のニーズを考えながら、運営していく必要がある。(教育長)

■【スポーツ振興課関連】

①学校保健体育事業の推進

(進捗状況)

- ・ 6月2日、学校プール管理者講習会を実施した。それと同時に、新任の教員については、水泳の実技指導も行っている。
- ・ 6月初旬に、「ひまわりカード」を各学校・幼稚園・保育園・こども園に配布し、6月16日から調査を開始している。
- ・ 小野市中学校総合体育大会が、6月13日、14日、15日に開催された。陸上競技については、6月21日に開催予定である。

(今後の予定)

- ・ 各中学校において、「おの体力検定(新体力テスト)」が実施され、現在、学校で結果を集計しているところである。
- ・ 7月に「おの検定(水泳検定)」を実施する予定である。結果の集計については、7月下旬になる予定である。

②第12回小野ハーフマラソン2025

(エントリー状況) 6月2日現在

	令和7年度	令和6年度
ハーフ 男子	4 4 6	3 4 3
ハーフ 女子	1 2 7	1 0 8
5 k m 男子	3 8	4 6
5 k m 女子	4 1	2 7
1. 5 k m 小学4～6年	2 4	2 6
1. 5 k m 小学1～3年	1 9	4 1
合 計	6 9 5	5 9 1

※昨年度と比較すると、若干、多い傾向がみられる

(進捗状況)

- ・6月2日、警備の打合せで、イオンが改修中で駐車場が使えないため、代替の駐車場が複数箇所になることについて、共通確認した。また、警備員が過剰な箇所については、人数を減らし、重点的に必要な箇所に充てるよう共通認識した。

(今後の予定)

- ・6月下旬から、警察との協議を進めていく予定にしている。
- ・6月19日にポスター、6月23日に大会要綱が到着予定である。6月末の区長便にて、全戸配布する予定にしている。

③スポーツ振興課情報

1 学校保健体育

○学校プール管理者講習会及び実技研修（心肺蘇生法・水泳指導）

日 時：6月2日（月）13時00分～16時30分

場 所：小野市総合体育館アルゴ

内 容：(1)学校プール管理者講習会
(2)心肺蘇生法研修会
(3)体育実技（水泳）指導者研修会

○小野市中学校総合体育大会

日 時：6月13日（金）、14日（土）、15日（日）※陸上競技：21日（土）

◆東播地区中学校総合体育大会

7月5日（土）、6日（日） サッカー、バスケットボール

7月12日（土）、13日（日）、19日（土） 上記種目以外

◆兵庫県中学校総合体育大会

7月23日（水）～30日（水）

2 社会体育

○連携協力事業「FC BASARA HYOGO サッカー教室」

日 時：6月22日（日）9時00分～11時00分

場 所：小野希望の丘陸上競技場アレオ

対 象：小野市スポーツ少年団サッカー部（4年～6年生 80名）

主 催：小野市、一般社団法人マイスター

→小野市と一般社団法人マイスターとの間で締結（令和6年8月16日）した
スポーツ振興を通じた連携協力に関する協定に基づく連携協力事業

○第60回町対抗ソフトボール大会

日 時：6月29日（日）9時00分～

場 所：河合運動広場、大池総合公園野球場

共 催：小野市ソフトボール協会、小野市教育委員会

3 今後の予定

○第14回スポーツ玉入れ「アジャタ」大会

日 時：7月20日（日）9時00分～

場 所：小野市総合体育館アルゴ アリーナ

主 催：小野市スポーツ推進委員会、スポーツクラブ21小野市推進委員会、
小野市教育委員会

練習日：6月28日（土）、7月2日（水）19時00分～21時00分

○地域スポーツ推進事業（東播磨・北播磨地区スポーツ推進委員連絡協議会）

日 時：7月26日（土）

場 所：西脇市オリナスホール

主 催：東播磨・北播磨地区スポーツ推進委員連絡協議会、西脇市スポーツ推
進委員会

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：中学校の総体で、ケガや熱中症等はなかったか。（教育委員）

A：バスケットボールの試合で、骨折の事故が1件、ソフトテニスの試合で、熱中症の疑いが1件、合計2件の報告があった。熱中症の疑いのある生徒については、病院に搬送されたが、意識もあり、現在は通常どおり通学していると聞いている。（事務局）

Q：中学校の総体で、帽子を被っていない子どもが数名いた。おそらく、白い帽子を購入して持っているのではないかと思うのだが、体育の授業等でも帽子は被らなくてもよいのか。(教育委員)

A：体育の時間については、各学校で「暑いときは、各自、帽子を持ってきて被ってもよい」というスタイルにしている。統一した帽子を購入しているのは、旭丘中学校のみで、他の中学校は、各自、家から帽子を持ってきている。帽子を被ることも、強制ではなく、生徒の判断に任せている。(事務局)

Q：中学校の総体で、初めて柔道を観覧したが、決まった時に拍手する程度で、応援が非常に静かであった。応援のルール等はあるのか。(教育委員)

A：特に声を出してはいけない等といったルールはなく、一般的な応援は許容されている。おそらく、小野中学校同士の組合せが多かったことから、どちらを応援するわけにもいかなかったため、静かな応援だったのではないだろうか。(事務局)

A：若干、ルールが変更され、野球やソフトボールでは、ピッチャーが投球フォームに入ったら、声を発してはいけない等といったルールはある。(教育長)

Q：総体の時、榊の野球場の駐車場で、ほぼ満車なのにコーンが置いてあるため、使用できない駐車枠が3つあった。何か理由があって空けていたのか。(教育委員)

A：おそらく、中学校の関係者が利用するために、置いていたのではないかとと思われる。(事務局)

A：「来賓用」「審判用」等といったように明記してあれば、駐車場を利用する方々が納得できると思う。一度、確認して、改善を依頼する。また、できる限り、保護者も乗合せて来られていると思うが、もう少し駐車枠を増やすことについても検討していただきたい。(教育長)

4 協議事項

○デジタル教材への今後の対応について(学校教育課)※別紙詳細

(1)教育行政顧問川島隆太教授との面談のポイント

- ・深い思慮と集中力を奪うスマートフォンに注意(子ども・大人)
 - ・スマートフォンより読書を
 - ・睡眠の重要性→子どもの生活習慣の見直し
 - ・五感を使った遊びに勝るものなし
 - ・夢と希望をかなえる主体的な授業の3種の神器
- ①アナログ、②協働的、③リアルなコミュニケーション

(2)助言

- ・「早寝・早起き、朝ごはん」の徹底

- ・子どもたちの家庭学習時間が短くなっている現状の実態把握
→スマートフォンから離れることができるか。
- ・幼児期の愛着形成及び褒められる環境の確立
→大人も含めて、スマートフォンの使いすぎが、集中力が持続せず、深い思考への妨げとなっている。

(3)デジタル化について

◆基本的な考え方

- ・教師は「子どもたちに何を学んでほしいのか」という意識をもった授業づくりをする。デジタル機器があるから使うのではなく、使用時の最適なツールを考える。
- ・主体的にツールを選択できる子どもを育てる。
- ・子どもたちが、読むもの・書くものは「紙」が望ましい。

◆OUTPUT

- ・個人の情報整理は、アナログ
→表現の際にコンテンツとしてデジタル機器を使用する。
- ・協働の情報整理も、デジタルより「紙」
→五感を使った作業により、議論の深さ、記憶力に差が出る。

◆生成A I

- ・生成A I とのやりとりは、ゲームをやっていることと同じ。子どもの思考が伸びるエビデンスはない。
- ・生成A I は、間違った情報提示や偏った考え方等、安全性が担保されていないため、「思考の壁打ち」は、生身の人間同士で行うものである。
→リアルなコミュニケーションに勝るものなし



「小野市型」を堅守、アプリの検討

■【教育委員からの照会及び意見】

Q：デジタル教材の今後の対応について考えていくには、デメリットだけでなく、メリットも踏まえて議論していかなければならない。メリットを紹介してほしい。
(教育長)

A：デジタル教材の主なメリットは、次のとおりである。(事務局)

- ①今まで手に入りにくかった情報が、手短に見ることができる。
※調べ方の簡便さや調査時間の短縮にもつながる。

- ②調べるため（確認するため）の手段に難があり、確認できなかった情報も、確認できる。
- ③支援を必要とする子どもたちには、拡大機能や読み上げ機能を支援ツールとして利用することによって、情報を確認できる。
- ④繰り返し学習ができる。
- ⑤子どもたちが苦手な問題をA I が判別し、類似課題をランダムに出すことができる。

Q：デジタルドリルについては、100点になるまで、端末上で繰り返し問題を解く方式になっており、繰り返し学習ができることが良いのだと聞いたことがある。しかし、自分が間違ったところを、後でもう一度できるのかといえば、資料等が何も残っていないため、わからないのではないかと思います。（教育委員）

A：デジタルドリルは、ランダムに出した問題を繰り返して学習することができる。しかし、ノートに書いて解くのではなく、端末の中で完結してしまうため、記憶にも残らない。したがって、脳の活性化には効果がないと考えている。子どもたちが間違った箇所や回数については、グラフ等で子どもたち自身が端末で確認できる仕組みにはなっている。同時に、先生の端末でも、子どもたちそれぞれの状況が確認できるため、「個別最適な学び」に活用できるよう課題克服の支援をしている。（事務局）

Q：デジタル機器を避けて通れない時代になり、デジタルばかりに頼らないよう、使い方を考えながら共存していくためにはどうすればよいか、意見をいただきたい。（教育長）

A：授業を参観した際、先生は、教材をホワイトボードに映して書き込んでおり、子どもたちには、同じ様式をプリントアウトして配布し、「先生と同じように書きましょう」と促していた。それを見て、紙に書くことが大事だと実感できた。また、教材を映し出すことによって、先生が教材を貼付けする時間や書く時間が短縮されているため、先生の負担も少しは楽になったのではないかと感じている。（教育委員）

※：その授業は、子どもたちに理解を促す支援ツールとして、デジタルをうまく使っている。また、教員にとっても、一つ資料を作っておけば、再度使用することもできるため、業務改善にもなっている。（教育長）

A：美術の授業で、タブレットに果物を映し出して、描いているのを見た。その授業は、デザインの授業だったため、必要性があつてタブレットを使用されていたのではないかと思います。しかし、デジタル化とともに、タブレット内で完結するような取組が進んでいくことに、怖さを感じている。やはり、脳を活性化するためには、実際の果物を置いて、においや形、質感を感じながら、子どもたちそれぞれが見た角度から、五感を使って描く方がよいのではないだろうか。当然、様々な

角度から見るため、同じ果物でも、それぞれ違って描かれ、子どもたちの個性も発揮されると思っている。以前、授業を5分短縮する話も出ていたが、やはり、授業のまとめをノートに書く最後の5分は、子どもたちにとって、非常に有効で大事な時間だと再確認した。(教育委員)

A：今の若い世代は、コミュニケーション能力が低いとよく言われている。そういう観点からは、AIとコミュニケーションをとるのではなく、例えば、4人でグループを作り、いろいろな意見を出し合う等といったグループ討議が有効なのではないだろうか。面と向かってしゃべっていると相手が何を言いたいのか、どういう気持ちでいるのかがわかり、そこで社会性も生まれてくる。そういうリアルなコミュニケーションが大事だと考えている。(教育委員)

※：「協働的な学び」の主な取組として、話し合いや議論をする授業が取り入れられている。タブレットを使用すると教室内全員の意見交換も可能になるが、あくまでもタブレット上でのコミュニケーションでは、記憶にも残らない。お互いに顔を見ながら会話・討論するというリアルなコミュニケーションによって、お互いの意見を参考として考えを深めることができる。そういった取組をベースにして、遠く離れた人とリモートでコミュニケーションを図る力が身につくのではないかと考える。(事務局)

5 次回定例教育委員会予定

7月22日(火) 13時30分～ 4階会議室4-1

8月21日(木) 13時30分～ 4階会議室4-1

6 閉会あいさつ 教育長